

「第11回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」アンケート 実践発表について

＜第1部門：私たちがはじめた、一人ひとりを大切にするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)＞

- ・利用者をよく知り、意に沿うケアが出来ているのか、その人の心に寄り添えているのか…支援する上での葛藤、そこから得たものなど共感出来た。
- ・おしつけのケアになっていないか？自施設でその場面にあったとき自分ではどうすればいいか考えさせられた。
- ・「できない、忙しい」が言い訳になっている事に気付けた。やってみる事の大事さが分かった。

＜第2部門：一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫(基礎編)＞

- ・排泄ケアについて、オムツの見直しを検討していたので、参考になった。
- ・自分の施設でもまだまだ出来ることがあると発見しユニットで実践してみたいと思いました。

＜第3部門：“食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし＞

- ・地域の特性を活かして、食事のあり方を見直し、施設食に「楽しみ」をもたらす新しい発見がありました。想いがよく伝わってきました。
- ・ほとんど厨房ではなくユニットでの食事づくりを行っているということで、質問時間がもっとあれば色々聞きたいことがあった。それくらい興味深かった。
- ・同じ取り組みをやっているの、興味深く聞きました。

＜第4部門：これまでの暮らしの継続を大切にしたい生活環境づくり＞

- ・居場所作りへの取り組み、試行錯誤されている様子が発表の中から感じられ、利用者さんをよりよく知ろうと思いました。
- ・普段、自分たちも働く側中心の配置になってしまっていますが、不便でも入居者中心で考えていけなさと感じました。
- ・その人らしさを考える難しさを改めて感じる事が出来た。

＜第5部門：記録やケアプランの工夫、情報共有のすすめ方＞

- ・職員・家族間のコミュニケーションの重要性を感じた。情報を共有し、利用者様に必要なケアを考えていければと思う。
- ・すぐにでも取り入れ、実践したいと思いました。
- ・とても共感出来ました。参考になる場所がありました。

＜第6部門：ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと＞

- ・初めてターミナルケアを習った時のことを思い出せました。自分の所でも見習いたい、今後取り組まなければと思いました。
- ・看取りを通してご家族との関わり方の大切さを改めて感じた。自分たちの今の関わり方を見直したいと思った。
- ・出会いが教えてくれることはたくさんあるなと思いました。この仕事は別れがつきものではあるので、1日1日を大切に利用者さんと過ごしていけないといけないと思いました。

＜第7部門：リーダーの悩みと工夫、育成と支援の方法＞

- ・実際にユニットリーダーになるまでの心境やこれからユニットリーダーになろうとしている方に参考になったと思う。
- ・施設の取り組み、ユニット内のルール作りや、入居者のしたいという声を大切にされていることが発表から見えてきて、自施設でもさらによいケアができる取り組みや体制づくりをしていきたいと思いました。
- ・職員全員の統一したケア、レベルを保つためのヒントをもらった。

＜第8部門：一人ひとりの暮らしを支えるためのチームケアや多職種との連携＞

- ・とても勉強になる話をしてくれました。同時に自分達がいつもしている事の反省をまずしました。業務に追われ入居者の方々の事を全員で1つに見て処理していたので、こういう事を取り込んでいきたいと思いました。
- ・同じような課題があったので参考になった。
- ・ご利用者の生活を支えていく上で一番大切な面のケア・関わりを職員全員が同じ意識の中で一丸となり持たれていると感じました。取り組んでいる中で土台がとてもしっかりしていると思いました。ご利用者への視点、職員の取り組み方など様々な学び気づきかけともなる本当に素敵で強く印象に残る発表でした。

＜第9部門：ユニットケアを支える職員育成・組織づくりや管理者の役割＞

- ・元気があって介護にとても夢を感じた。施設を見学してみたい。
- ・常に基盤となる考え方の統一について、どうしたら良いか？と考えていた為、とても勉強になった。
- ・今回参加した大きな理由の1つに新人教育体制の確立への手がかりを探ることがあったので、大変参考になった。教育の考え方、方法論など、当施設でも取り組めると思うことが多くあった。説明もわかりやすかった。

＜第10部門：職員のやる気とやりがいを大切にする工夫とその評価＞

- ・やる気を促進させる取り組みの今後を知りたいと感じさせる内容だった。
- ・利用者様の重度化などによる職員へのストレスなど、当施設でも抱えている問題点について追及されており、解決へ向けての取り組みなど参考になる部分がとても多かった。当施設でも取り組んでみたい。

＜第11部門：震災に学ぶ・備える・取り組む-被災地域の施設の役割とこれから＞

- ・震災で生活が全て根底からなくなっても残された人たちができることをしていこうとする姿に感動しました。亡くなった年齢層も幅広いことに改めて生きる事の尊さを感じます。
- ・涙が出てきました。リアルに震災を感じました。
- ・被災地の生の声を聞く事が出来、災害にあったからこそ、他の施設にもその時の状況・教訓を伝えなければ!!という思いが伝わってきた。この発表を聞いて私にも色んな人々に伝えなければという気持ちにさせられた。

分科会について（一部抜粋）

- ・アンコール報告とその後、すごく考えさせられ、ハッとさせられる事が多かったです。すごく勉強になる発表会でした。
- ・どこの施設もユニットケアを通してさまざまな取り組みをされており、刺激を受けました。アンコール報告のスライドショーには涙しました。
- ・アンコール報告がとても良かったです。私は前回参加していなかったのですが、それでもよく分かる発表でした。介護の現場でがんばられている姿にとっても励まされました。

- ・聞きやすく、わかりやすく良かったです。
- ・自施設以外の終末期ケアについて知る機会が持てて良かった。

- ・清水先生の話が幅の広い話でためになりました。
- ・震災に遭った方の気持ち、助かった方の心のことは深く考えていなかったことがあったのかもしれないとすごく考えさせられました。又、震災時の大変な対応、今後同じ被害が起きた時のことについて考えさせられました。

- ・震災について経験談などの話が聞けたので大変良かった。
- ・東日本大震災の話を聞かせて頂いて、改めて備蓄の大切さを感じました。
- ・3. 11に何が起き、その後の復興、そして現在までを考えさせられました。3. 11は忘れてはいけないことだと胸に突き刺さりました。

- ・施設と地域をどうやってつなげていくかの参考にとってもなりました。